

## 第 7 章

# 子どもの学年による 子育ての違い

木村 治生



## 第1節

## 年少児(3歳児)

年少児は、年中児、年長児と比べて衣食や排泄といった基本的な生活についての自立が十分ではなく、そのことを気がかりにする母親が多い。また、幼似的な行動から、子どもをわがままで乱暴と認識する割合が高い。しかし、年少児の母親は、話す・聞くといった基本的なかかわりを「ほとんど毎日」する割合が高く、子育ての不安感も相対的にみて低いのが特徴である。

## ◆◆発達の状況

最初に発達の状況を確認するために、年少児が自分一人のできることをみてみよう。「完全に一人でできる」と「だいたい一人でできる」の合計が7割を超えるのは、「衣服を脱いだり着たりすること」88.1%、「トイレでの排泄や、そのあとしまつ」81.5%、「家族やまわりの人にあいさつやお礼を言うこと」71.1%、「食事をこぼさず、ぎょうぎよく食べること」70.4%の4項目である。衣食、排泄にかかわる基本的な生活技術については、3歳の段階で多くの子どもが身につけていることがわかる。しかし、「あまり一人ではできない」「まったく一人ではできない」という子どもも、2～3割くらいいて、発達差があることに注意を払う必要がある。

一方、「一人でできる(完全に+だいたい)」割合が5割を下回るのは、「翌日のしたくや準備をすること」18.3%、「お風呂でのからだ洗い」43.3%、「家事のお手伝い」43.9%、「約束を守ること」46.0%、「決まった時間に朝起きたり、夜寝たりすること」48.5%の5項目である。「翌日のしたくや準備」は、まだその必要がなかったり、翌日のことを考えるといった時間認知が十分にできなかったりするためであろう。約束を守って自分のやりたいことをがまんすることや、起床・就寝時間をコントロールすることも、まだ一人でするのは難しいようだ。回答者である母親たちは、子どもの様子を見て、「今」だけでなく

「少し先」を考慮することや、「自分」だけでなく「相手」のことを考えるといったことは、まだ十分にはできていないと認識している。

## ◆◆年少児の母親の悩みや気がかり

次に、年少児をもつ母親の悩みや気がかりについて検討したい。全般的には食事、排泄、身じたくといった基本的な生活技術の習得に関する悩みが年中児、年長児の母親よりも多い。これは発達の状況と関連しているものと考えられる。たとえば、「食事のしつけ」47.6%、「子どもの食事のとり方」45.9%、「おねしょ、トイレのしつけ」19.0%、「着がえ」9.0%などに悩んでいるという回答は、年長児の母親と比べると5～8ポイントほど数値が高い。上述したように、年少児のなかには基本的な生活技術がまだ十分に身につけていない子どもが一定の比率で存在するために、悩んだり気がかりに思ったりする割合が高くなるのだろう。また、「園での生活について」を選択している母親は21.7%となっていて、年長児の母親と比べて6.4ポイント高く、初めての集団生活を心配している様子が見えがえる。

では、全体的な不安感についてはどうだろうか。「よくある」「時々ある」と回答する比率をみると、「子どもの様子を見てみると、つい不安になることがある」(年少児56.9%<年中児61.2%<年長児66.0%、以下同様)、「子どもをよその子と比べて落ち込む」(16.7%<22.3%<23.5%)の2項目は、年少児の

母親がもっとも低い値を示している。この点では、年少児の母親は他の学年の母親に比べて不安感が低いといえる。しかし、「子どもを感情的に叱ってしまう」「子どもの態度にイライラする」は8割強が、「子どもを思わずたたいてしまう」は5割弱が「ある」と回答していて、これらの項目は学年差がみられない。このように子育てにイライラを感じることや感情的になってしまうことは、子どもの成長にかかわらず日常的に経験している。

### ◆◆子どもの様子や態度についての見方

それでは、子どもの様子や態度について、母親たちはどのようにみているのだろうか。年少児の母親に特徴はあるのだろうか。学年差が顕著なのは「わがままである」で、「とてもそう」と「まあそう」と回答した合計は、年少児42.0%に対して、年中児35.5%、年長児28.2%となっている。また、「乱暴である」も14.1%>10.1%>8.5%となっていて、年少児は母親から“自分勝手に乱暴”ととらえられやすいようだ。こうした母親の認識は、子どもが成長して周囲の状況に応じた行動ができるようになると減少する。

年少児の活発さは、自分勝手に乱暴と否定的に認識されていると同時に、肯定的にとらえられてもいる。たとえば、「好奇心が強い」に「とてもそう」「まあそう」と回答する比率は、76.3%>71.9%>68.7%である。また、「運動神経がよい」も、若干ではあるが他の学年よりも数値が高い。

常に適切に状況に応じて行動することや相手の意を汲んで行動することは、年少児には難しい課題である。したがって、おとなの目からは自分勝手に映る行為も、その多くは解消していくものと考えて、できるだけポジティブにとらえたいものである。

### ◆◆子どもへの働きかけ

次に、子どもとのかかわりや働きかけの実態であるが、年少児の母親は、話す・聞くといったベーシックなかかわりを多くしてい

て、学習を意図した働きかけが少ないのが特徴である。たとえば、子どもとのかかわりについて「ほとんど毎日」する比率をみると、「子どもに一日の出来事を聞く」年少児88.4%>年中児83.2%>年長児78.5%、「子どもと一緒に遊ぶ」55.1%>50.1%>34.8%、「絵本や本の読み聞かせをする」29.3%>24.4%>17.6%などとなっていて、年少児の母親がもっとも高い比率になっている。また、「子どもと一緒に話をする」は学年差がみられないが、年少～年長児まで9割台半ばと高い割合で推移している。

一方で、学習にかかわる働きかけは、年中児、年長児の母親に比べてまだ少ない。「週に1日以上」（「ほとんど毎日」「週に3～4日」「週に1～2日」の合計）の比率をみると、「ひらがなやカタカナの学習をする」28.9%<46.7%<51.3%、「数や算数の学習をする」22.5%<30.6%<36.4%、「パソコンを使って遊んだり、学習したりする」13.8%<16.9%<20.7%と、学年が上がるにしたがって数値も上昇する項目が多くなっている。唯一、年少児のほうが比率が高いのは「英語のビデオ教材を見せたり、CD教材を聞かせたりする」で、年少児26.5%に対して、年中児23.2%、年長児20.8%となっている。

### ◆◆習い事の状況

最後に、年少児の習い事の状況を確認しよう。スポーツ、学習、芸術など何らかの習い事（通信教育を含む）をしている年少児は41.9%で、全体の半数以下にとどまっている。習い事の数、「0」56.4%、「1つ」23.1%、「2つ」12.9%、「3つ以上」5.8%である。内訳として多い項目は順に、「定期的に教材が届く通信教育」20.6%、「スイミングスクール」14.5%、「英会話などの語学教室や個人レッスン」8.9%、「スポーツクラブ・体操教室」5.7%となっており、それ以外の習い事は5%に満たない。年少児の保護者が負担している保育園・幼稚園以外の教育費の平均額（子ども一人あたり1か月の額）は、3,668円である。

## 第2節

## 年中児（4歳児）

年中児になると、基本的な生活技術に加え、公共の場で騒がない、約束を守るといった周囲や相手との関係性を考慮した行動が急速にできるようになる。悩みのなかでは、親子関係や子どもの友だち関係などが複雑になって、人間関係の苦勞が増える様子がうかがえる。この時期は、学習にかかわる働きかけや習い事をする割合などが増加するのが特徴で、6割弱の子どもが何らかの習い事をするようになる。

## ◆◆発達状況

さまざまな生活技術について「一人でできる（完全に+だいたい）」割合は、年少から年中、年長と段階的に増加する。その発達の過程について、年少から年中にかけての変化、年中から年長にかけての変化に注目すると、後者よりも前者の伸びのほう大きい項目が多い。12項目中11項目で年中と年長の差よりも年少と年中の差のほう大きく、3歳から4歳にかけての発達がめざましいことがわかる。

「完全に一人でできる」と「だいたい一人でできる」の合計が7割を超えるのは、「衣服を脱いだり着たりすること」96.6%（年少児から8.5ポイント増、以下同様）、「トイレでの排泄や、そのあとしまつ」91.1%（9.6ポイント増）、「食事をこぼさず、ぎょうぎよく食べること」81.7%（11.3ポイント増）、「家族やまわりの人にあいさつやお礼を言うこと」77.5%（6.4ポイント増）、「公共の場で騒がないこと」73.9%（7.1ポイント増）、「歯磨きの習慣」73.3%（19.3ポイント増）の6項目である。年少児に比べて、2項目増えている。

一方、「一人でできる」割合が5割を下回るのは、「翌日のしたくや準備をすること」34.4%の1項目のみとなり、年少児が5項目あったのに比べるとずいぶん少なくなっている。また、この項目自体も、年少児の18.3%

から16.1ポイントも増加している。

このほか、「お風呂でのからだ洗い」62.0%（18.7ポイント増）、「家事のお手伝い」58.4%（14.5ポイント増）、「約束を守ること」59.1%（13.1ポイント増）などで「一人でできる」比率の伸びが目立つ。この時期の子どもは、衣食、排泄にかかわる基本的な生活技術に加えて、歯磨きやからだ洗いなどの清潔さを保つこと、周囲の状況を考えて静かにすること、相手との約束を守ることなどが、急速にできるようになることがわかる。

## ◆◆年中児の母親の悩みや気がかり

次に、悩みや気がかりについて検討しよう。年中児の母親の数値は、年少児と年長児の母親の数値の中間に位置する項目が多い。そこで、年少児からの変化が大きい項目に注目する。

まず、食事、排泄、身じたくといった基本的な生活技術の習得に関する悩みは、子どもの発達とともに減少する。たとえば、「食事のしつけ」42.8%（4.8ポイント減）、「子どもの食事のとり方」39.9%（6.0ポイント減）、「おねしょ、トイレのしつけ」14.4%（4.6ポイント減）、「着がえ」6.5%（2.5ポイント減）などは、年少児に比べて悩みや気がかりとしてあげる比率が低下している。

一方、年少から増加する項目をみると、「ほめ方・しかり方」47.8%（5.0ポイント増）、

「友だちとのかかわり」46.9% (6.1ポイント増)、「あいさつやお礼の習慣」32.7% (7.0ポイント増)、「人間関係」(注：母親自身の)31.5% (4.2ポイント増)などである。年少のときに比べると、親子や子ども同士、親同士の関係が複雑になって、人間関係の悩みやそれを維持するための苦労が増える様子がうかがえる。

では、全体的な不安感についてはどうだろうか。「よくある」「時々ある」と回答する比率をみると、「子どもの様子を見ていると、つい不安になることがある」61.2% (4.3ポイント増)、「子どもをよその子と比べて落ち込む」22.3% (5.6ポイント増)の2項目で、年少児よりも増加している。さらに前節でも述べたように、8割前後の母親が「子どもを感情的に叱ってしまう」「子どもの態度にイライラする」、5割強の母親が「子どもを思わずたたいてしまう」に「ある」と回答している。子どもの成長によってある種の悩みは低減するものの、同時に別の悩みが増幅して、トータルでは子育ての不安感やイライラが減ることはないようである。

### ◆◆子どもの様子や態度についての見方

続いて、子どもの様子や態度についての見方はどう変化するのだろうか。年中児の母親は、年少児の母親に比べて「わがままである」「乱暴である」「運動神経がよい」「好奇心が強い」といった項目に「そう(とても+まあ)」と回答する比率が低下する。年少児に特有の活発さが弱まるため、活動的であることを否定的にみる見方と肯定的にみる見方の双方の比率が減少するようである。一方、発達にしたがって子どもに規律正しさを求めるようになるためか、「だらしない」(11.5%、3.4ポイント増)という回答が増加する。

### ◆◆子どもへの働きかけ

次に、子どもとのかかわりや働きかけの実態について確認しよう。大きな変化ではないが、年中児の母親は年少児の母親と比べて、

遊ぶ・聞くといった基本的なかわりが減少する。「ほとんど毎日」する比率は、「子どもに一日の出来事を聞く」83.2% (5.2ポイント減)、「子どもと一緒に遊ぶ」50.1% (5.0ポイント減)、「絵本や本の読み聞かせをする」24.4% (4.9ポイント減)となっている。

その一方で、学習にかかわる働きかけをする割合は増加する項目が多い。「週に1日以上」(「ほとんど毎日」「週に3~4日」「週に1~2日」の合計)の比率をみると、「ひらがなやカタカナの学習をする」46.7% (17.8ポイント増)、「数や算数の学習をする」30.6% (8.1ポイント増)、「パソコンを使って遊んだり、学習したりする」16.9% (3.1ポイント増)となっている。年少児のときは3割弱だった「ひらがなやカタカナの学習をする」が、年中児になると半数弱にまで増えることがわかる。

### ◆◆習い事の状況

最後に、習い事の状況であるが、年中児は習い事をする割合も大幅に増加する。スポーツ、学習、芸術など何らかの習い事(通信教育を含む)をしている割合は、年少児では41.9%であったが、年中児では59.1%にまで増える。習い事の数も、「2つ以上」の複数受講が、年少児では18.7%であったのが、年中児では30.4%となる。年中児の6割弱が何らかの習い事を行い、そのうち半数が複数を受講していることになる。

内訳として多い項目は、「定期的に教材が届く通信教育」23.5% (2.9ポイント増)、「スイミングスクール」22.8% (8.3ポイント増)、「英会話などの語学教室や個人レッスン」13.1% (4.2ポイント増)、「スポーツクラブ・体操教室」12.1% (6.4ポイント増)、「楽器」6.5% (4.6ポイント増)の順である。それ以外の習い事は5%に満たないが、習う比率が上昇している項目が多い。年中児の保護者が負担している保育園・幼稚園以外の教育費の平均額(子ども一人あたり1か月の額)は、年少児のときから1,881円増えて、5,549円になる。

## 第3節

## 年長児（5歳児）

年長児になると、食事や排泄といった基本的な生活技術についてはほとんど一人でできるようになり、年少児、年中児と比べると、これらの悩みは減少する。しかし、四人に一人の母親が「小学校入学前の準備教育」を気がかりに思っているなど、進学面での不安が増える。子どもの様子を見ていて感じる不安感も、成長にしたがって高まる傾向がある。7割弱の子どもが何らかの習い事をしており、1か月の教育費の平均額も7,000円弱となる。

## ◆◆発達の状況

年長児は、基本的な生活技術について一人での程度のことができるのであろうか。「一人でできる（完全に十だいたい）」割合が7割を超える項目は、年少児4項目、年中児6項目であったが、年長児は7項目となる。しかし、年中児から年長児にかけての伸びが鈍化する項目もいくつかある。

「衣服を脱いだり着たりすること」98.1%（年中児から1.5ポイント増、以下同様）、「トイレでの排泄や、そのあとしまつ」95.3%（4.2ポイント増）、「食事をこぼさず、ぎょうぎよく食べること」86.3%（4.6ポイント増）の3項目は、年中の段階で大部分の子どもが一人でできるようになっていて、年中から年長にかけての伸びは小さい。「公共の場で騒がないこと」78.2%（4.3ポイント増）、「家族やまわりの人にあいさつやお礼を言うこと」78.0%（0.5ポイント増）の2項目は、一人ではできない幼児が2割強おり、「一人でできる」の伸び率も低く、幼児にとって発達上の課題になっていると考えられる。また、「歯磨きの習慣」81.0%（7.7ポイント増）、「お風呂でのからだ洗い」79.1%（17.1ポイント増）の2項目は、増加の比率が比較的大きく、歯磨きやからだ洗いなどの清潔さを保つことについては8割前後の年長児ができるようになる。

「一人でできる」割合が5割を下回るのは、

年中児と同様に「翌日のしたくや準備をすること」47.1%の1項目だけで、この項目も年中児と比べると12.7ポイント増加している。翌日のことを考えて備えるという時間的な認知も、年長児になると半数近くができるようになることがわかる。

## ◆◆年長児の母親の悩みや気がかり

では、年長児の母親は、どのような悩みや気がかりを抱えているのだろうか。

食事に関する気がかりは、年少、年中、年長と段階的に減少はするが、「量や栄養バランスを考えた食事の与え方」41.7%（3.1ポイント減）、「食事のしつけ」40.0%（2.8ポイント減）、「子どもの食事のとり方」38.3%（1.6ポイント減）などの項目は、4割前後の母親が選択している。このほか、排泄、身じたくといった基本的な生活技術の習得に関する悩みも減少し、「おねしょ、トイレのしつけ」12.3%（2.1ポイント減）、「着がえ」3.8%（2.7ポイント減）などを選択する母親は少ない。「園での生活について」も15.3%と、年中児に比べて4.4ポイント減少する。

反対に、年少、年中から増加する項目をみると、「小学校入学前の準備教育」（年少児9.7%＜年中児13.3%＜年長児24.7%、以下同様）、「翌日のしたくや準備をすること」（4.4%＜6.2%＜10.0%）など、小学校への入学を意識した気がかりが増えている。また、「テ

レビゲーム」(7.0%<11.1%<19.4%)を心配する母親も増える。「テレビゲーム」については、女子の母親が選択する比率は年長児でも8.0%であるが、男子の母親の場合、9.7%<17.8%<30.3%と大きく増える。

前節でも確認したが、年少から年中にかけて増えていた親子関係、子ども同士や母親自身の人間関係に関連する悩みの数値も高い。「ほめ方・しかり方」(42.8%<47.8%<48.7%)、「友だちとのかかわり」(40.8%<46.9%<48.1%)、「あいさつやお礼の習慣」(25.7%<32.7%<33.1%)、「人間関係」(注：母親自身の)(27.3%<31.5%<34.5%)などは、年長児の母親がもっとも多く選択している。

次に、全体的な不安感についてであるが、「よくある」「時々ある」と回答する比率をみると、「子どもの様子を見てみると、つい不安になることがある」(56.9%<61.2%<66.0%)という割合が増える。子どもの成長にしたがって、不安感も高まることがわかる。

### ◆◆子どもの様子や態度についての見方

続いて、子どもの様子や態度についての見方をみてみよう。年長児の母親の特徴は、「わがままである」という見方が大きく減少し、「がまんづよい」という見方が強まることにある。「わがままである」に「そう(とても十まあ)」と回答する比率は、42.0%>35.5%>28.2%と推移する。それに対して、「がまんづよい」は、年少児と年中児では差がないが、年長児になると48.5%で4.1ポイント増加する。親子関係や友だち関係のうえで幼児的なわがままを言うことが少なくなり、周囲の状況や親の意向に合わせてがまんをする場面が増える様子がうかがえる。

### ◆◆子どもへの働きかけ

では、子どもとのかかわりや働きかけはどのように変化するのだろうか。遊ぶ・聞くといった基本的なかわりは、発達によって減少し、年長児で最小値を示す項目が多い。「ほとんど毎日」する比率は、「子どもに一日

の出来事を聞く」88.4%>83.2%>78.5%、「子どもと一緒に遊ぶ」55.1%>50.1%>34.8%、「絵本や本の読み聞かせをする」29.3%>24.4%>17.6%といった状況である。

学習にかかわる働きかけは、発達によって増加する項目が多いが、「英語のビデオ教材を見せたり、CD教材を聞かせたりする」だけが減少し、「週に1日以上」(「ほとんど毎日」「週に3~4日」「週に1~2日」の合計)の比率は26.5%>23.2%>20.8%と変化する。その他は、「ひらがなやカタカナの学習をする」28.9%<46.7%<51.3%、「数や算数の学習をする」22.5%<30.6%<36.4%、「パソコンを使って遊んだり、学習したりする」13.8%<16.9%<20.7%というように、年長児に最大値を示す項目が多い。

### ◆◆習い事の状況

最後に、習い事の状況について検討しよう。スポーツ、学習、芸術など何らかの習い事(通信教育を含む)をしている割合は、41.9%<59.1%<67.8%と推移する。年長児では、7割弱の子どもが習い事をしている。習い事の数も、「2つ以上」の複数受講が、18.7%<30.4%<39.5%となる。全体からみても、ほぼ4割の子どもが複数の習い事をしている。

内訳として多い項目は、「スイミングスクール」14.5%<22.8%<26.8%、「定期的に教材が届く通信教育」20.6%<23.5%<24.0%、「スポーツクラブ・体操教室」5.7%<12.1%<15.3%、「英会話などの語学教室や個人レッスン」8.9%<13.1%<14.9%、「楽器」1.9%<6.5%<11.5%などである。習い事をする比率や複数受講の比率が高まる結果、保護者が負担している保育園・幼稚園以外の教育費の平均額(子ども一人あたり1か月の額)は、年少児3,668円、年中児5,549円に対して、年長児6,935円であり、7,000円に近い金額になる。